

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2018～2019年度 国際ロータリー バリー・ラシン 会長テーマ

BE THE INSPIRATION インスピレーションになろう

創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyac@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 鈴木 文三郎
幹事 豊田 貴久
会報委員長 磯部 一智

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3028回例会プログラム

[当年度=13回目；当月=5週目]

2018年（平成30年）10月29日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……………〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……………四つのテスト
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 幹事報告
9. 出席報告
※第1四半期皆出席の発表（出席委員会）
10. 委員会報告
11. ニコニコボックス報告
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(11/5) ……卓話

講師 株式会社まるや八丁味噌
代表取締役 浅井信太郎 様
(紹介者 加藤大志朗 会員)

- (11/12) ……職場例会（職業奉仕委員会）
12:30～例会（刈谷商工会議所）
13:05～見学（「トヨタ創業期試作工場」
愛知製鋼株式会社刈谷工場内）

2. クラブフォーラム……………〈米山記念奨学委員会〉

- 13:00 卓話 「米山記念奨学事業について」
米山学友会長 林 瑠 様
地区米山記念奨学委員会
副委員長 加藤 英樹 様
(紹介者 奥野 櫻子 会員)

13. 謝辞
14. 点鐘……………〈会長〉
15. 閉会宣言
13:30 16. 散会

出席

会員総数 97名 出席免除 25名
出席義務者+免除者の内例会出席者 91名
欠席 8名 出席率 91.20%
前々回（10/15）の修正出席率 100%

会長報告

- 1) 10月24日（水）開催の学校訪問コンサートで亀城小学校、富士松東小学校に出席してきました。



- 2) 10月25日（木）開催の刈谷市国際交流協会役員会に、小川国際奉仕委員長に代理出席して頂きました。
3) 10月27日（土）開催のワールドフードふれあいフェスタのエンドポリオナイトに室殿副会長他、刈谷メンバー6名が出席してきました。

幹事報告

- 1) 平野和一会員がご逝去されましたので現在の会員数は97名となります。
2) 11月1日より、ロータリーレートは1ドル112円になりました。
3) 本日例会終了後に理事会、65周年実行委員会を事務局にて開催しますので、関係の方はご出席をお願いします。

鈴木文三郎



5年前の2013年2月25日から3月9日の13日間、独立行政法人 国際協力機構「JICA」の第1回中南米民間連携調査団の一員として、日本全国から集まった13社の代表と共に、ブラジルとパラグアイを訪問しました。

JICAでは、途上国の持続的な成長や万人のための成長には、ODAだけでやることには限界があり企業活動の発展が不可欠で、ODAと民間企業との連携が重要と考えて、民間連携調査団を派遣することになりました。

当時私がJICAに提出した報告書からその一部を振り返ってみます。

角文を含むグループ3社の南米への進出の可能性について報告いたします。

ワイヤーハーネス製造の「GSエレテック」は、北米市場をターゲットにメキシコに2工場を建設して進出済みです。今後、ブラジルを主な市場とする南米進出を検討します。

JICAの調査団に参加して、市場としてのブラジルの魅力と、生産拠点としてのパラグアイの魅力を実感。パラグアイに工場を設置して、豊富で優秀な労働力を背景に労働集約型のワイヤーハーネスを製造し、ブラジル市場へ輸出するビジネスモデルが最適と考えます。

人材派遣会社の「ベルテック」は、西三河地域で20年以上に亘り主にトヨタ関連の自動車産業向けに日系ブラジル人の派遣を行ってきました。自動車部品製造の技術を身に着けた日系ブラジル人の多くが帰国しており、その人材を活用してブラジルに現地法人を設立。日本での就労経験のある日系ブラジル人を、ブラジルへ進出する日系企業に紹介するというビジネスモデルに需要があると考えます。

建築・不動産を手掛ける「角文」としては、トヨタ自動車から見て2次、3次の下請け企業が南米に進出する際に、施主代行として現地の建設会社との交渉、現場監理を行うというビジネスモデルが考えられます。

実際に、「GSエレテック」がインドネシアやタイに進出した際にも施主代行を行っており、大企業のように社内に施設管理部門を持たない中小企業の役に立てると思われます。また、今回調査団のバスの車窓から見た建築現場の施工管理の貧弱さや安全意識の希薄さを散見すると、日本的な施工管理がブラジルやパラグアイの施工品質の向上や事故の減少に寄与すると考えます。

また、今後増加が見込まれる住宅需要に対応して、現地で分譲マンション事業等を行うことも将来的には考えられます。その際には日本のセキュリティ対策や省エネルギー対策などを駆使した商品が競争力を持つものと思われれます。

以上が当時の報告書の要約ですが、現地へ行って初めてわかるメリットやデメリットがあります。今後も、色々なことに興味を以って、色々な角度から考える姿勢を持ち続けたいと思います。

卓話 「米山記念奨学事業について」

2760地区 米山学友会長 林 瑛 様



“よねやま”を理解するキーワードは3つです。

1つ目は、日本のロータリーが作り育てた「独自」の事業であること。

2つ目は、この事業は、日本国内で「民間最大」の事業規模であること。

3つ目は、「世話クラブ・カウンセラー制度」によって、奨学期間中、フェイス トゥフェイスで、日本の心・ロータリーの心を伝える真の交流ができること。

次に、米山ではどのくらいの奨学生を支援しているかについてお話しします。

米山は、外国人留学生を対象とする民間の奨学金では国内最大規模です。

2018学年度は日本全国で852人が採用され、現在、各ロータリークラブでお世話をいただいています。累計では世界127の国と地域から2万396人を支援しています。奨学生数の決定と選考

「将来の目標・留学の目的がきちんとしているかどうか」

「交流への熱意があるかどうか」

「人柄の良さ」

「コミュニケーション能力の高さ」

- ・世話クラブ・カウンセラー制度は、米山奨学金制度の最大の特長です。

- ・米山奨学生としての期間中、キャンパスが所在する地区にあるロータリークラブのうち一つのクラブが奨学生の「世話クラブ」となり、そこでの交流を通じてロータリー活動や日本社会に触れる機会があります。奨学生は世話クラブの例会(meeting)に月に1度出席し、そこで奨学金も受け取ります。

学友会組織

■日本国内に33、海外に8の米山学友会組織

奨学生になって良かったことは何ですか。

回答のあったすべての奨学生が「奨学生になって良かった」と回答しました。

その理由としては、「経済的に支えられた」が最も多く、「奉仕の心を学ぶことができた」「日本人の考え方やマナーを知ることができた」「精神的に支えられた」と続きます。

学友会でつながる絆

■国内に33(全地区を網羅)海外(韓国・台湾・中国・タイ・ネパール、モンゴル)8

元奨学生と現役奨学生によって組織される学友会は日本国内に30あり、全地区を網羅しています。海外には韓国・台湾・中国にそれぞれ学友会があります。活動内容は学友会によってさまざまですが、奨学期間が終わったあとも、ロータリーとのつながり、学友同士の絆を深め

る役割を果たしています。

ロータリアンになった学友

■200人

■米山学友を中心とするロータリークラブが日本でも誕生

▶2750 東京米山友愛 RC (29人中18人)

2760地区米山学友会

■21年前設立された。学友数200人以上。

■恒例なイベントを開催

* 企業見学会 (2630地区と共同)

* 米山学友会総会

* 秋旅行

* WFF ボランティア活動

* 地区大会参加

* クリスマス会

米山奨学事業の支援

■米山学友会の運営

■奨学生の進学・就職相談

■ヘルスケア支援

■奨学生との交流

■他地区、海外米山学友会との横のつながり強化

■ロータリーとの間の橋渡し役

自己紹介

■出身：中国 北京市

■1993.9来日

■1995.4～1997.3米山奨学生 (三重大学大学院生物資源学科)

■世話クラブ 松坂東

■1997.4 米山学友として活動中

約20000名の学友は日本のロータリアンへの感謝とロータリー精神を胸に世界へ巣立っています。

クラブフォーラム

卓話 「米山記念奨学事業について」

地区米山記念奨学委員会

副委員長 加藤 英樹 様



日頃は米山奨学事業に多大なるご支援をいただきありがとうございます。

刈谷ロータリークラブ様におかれましては累計で52百万円弱のご協力をいただいております。

1月1日現在の会員数が96名。特別寄付者の人数が58名。法人が1社ありますので、特別寄付者割合は60.4%となります。全国平均では45.4%ですので非常に優秀なロータリークラブではありますが、田原、半田南、小牧、名古屋丸の内、名古屋和合、岡崎東、豊田中、などは100%を超えるロータリークラブがあります。ぜひそこを目標に頑張っていただくと助かります。

当地区、第2760地区は、一人平均13,493円、全国で20

番目でした。

もう少し詳しく見てみますと、当地区の普通寄付金は平均4,714円、全国平均は4,797円。

また、特別寄付金は8,780円、全国平均は11,271円でした。

地区で採用できる奨学生の数は、このような計算式で算出しています。

まず、収入予測をもとに、採用数が決まります。2019学年度は850人枠です。

株式の「配当金枠」や、海外から直接応募する「別枠」を除く776人を、その地区の寄付総額、個人平均寄付額、特別寄付者割合、有資格者数、それぞれの対全国比で案分します。

最後に、2018年9月、2014年から4年間理事長をつとめた小沢一彦氏が退任され、第7代理事長として斎藤直美氏が就任されました。斎藤直美氏は我々第2760地区・豊田ロータリークラブに所属し、2006-07年度同地区ガバナー、2016-18年度国際ロータリー理事をおつとめになられました。斎藤理事長のもと、50周年後の新たな一歩を踏み出して行くこととなります。

第5回理事会

I 会長挨拶 <会長>

II 議題

- 11・12月のプログラム(案)について
<クラブ奉仕委員長>
<プログラム委員長>
- クリスマス家族会について
<クラブ奉仕委員長>
<フェロシップ委員長>
- 学校訪問コンサート協賛について
<社会奉仕委員長>
- RYLA セミナー参加について
<青少年奉仕委員長>
- 次年度指名委員について
<幹事>
- その他

III 会場監督の所見